DX時代の企業と情報システム～次世代型ビジネスプロセスエンジニアの役割とイノベーションを生み出す超上流作法【会場】（4124147）

DX時代の企業と情報システムにおいて大きく2つの視点から学びます。まずは次世代型ビジネスプロセスエンジニアの役割について、企業の意思決定に必要なビジネス・プロセス・エンジニアリングを学びます。次にイノベーションを生み出す超上流作法について、新しい攻守のITにおける超上流のアプローチ「論理×創造」を、手を動かしながら学んでいきます。

開催日時	2024年10月16日(水) 10:00-17:00会場 2024年10月17日(木) 10:00-17:00会場
カテゴリー	事業戦略策定・事業戦略評価　IS戦略策定・IS戦略評価・IS企画・IS企画評価 専門スキル
DXリテラシー	Why(DXの背景)
講師	濱田文吾 氏 （株式会社Symval 代表取締役） 花王のＩＴ部門にて、研究からマーケティング、販売までを担当し、基幹システムのグローバル展開から先端技術を活用したＡＩプロジェクトに参画し、ＪＵＡＳ活動を通じて、既存ビジネスの変革や企業内イノベーション手法を研究。創造的思考によるアイデア構想と論理的思考からの妥当性と実現性検証をメソトロジーに落とし込み、ＤＸプロジェクトに対応するフレームワークとしてイノベーション経営カレッジ（IMCJ）にて公開。出島スタイルの異業種共創プログラム（Challenge Camp）として、DXを自ら担うリーダー層へ展開している。
参加費	ＪＵＡＳ会員/ITC：70,400円 一般：90,200円（１名様あたり　消費税込み、テキスト込み）【受講権利枚数2枚】
会場	※2024年4月より移転しました※一般社団法人日本情報システム・ユーザー協会（NBF東銀座スクエア２F）
対象	IT部門に新たに配転になった方、新入社員～30代前半位の若手社員 初級
開催形式	講義、グループ演習
定員	25名
取得ポイント	※ITC実践力ポイント対象のセミナーです。（2時間1ポイント）
ITCA認定時間	12

主な内容

■受講形態
会場のみ（オンラインなし）
■テキスト
当日配布
■開催日までの課題事項
特になし

DX時代の企業と情報システムの関係において大きく２つの視点から学びます。
まずは企業の意思決定に必要なビジネス・プロセス・エンジニアリングを学びます。
次にイノベーションを生み出す超上流へのアプローチ「論理×創造」を、手を動かしながら学んでいきます。

◆DX時代の企業と情報システム１
～次世代型ビジネスプロセスエンジニアの役割

DXという言葉を日常的に聞くようになりましたが、ユーザー企業やその情報部門において、DXとはどのような意味や範囲をさすのでしょうか。
ユーザー企業の経営層やユーザー部門からも最新テクノロジーを活用した業務変革の期待をされることがありますが、流行りのAIや高価なパッケージソフトを導入すれば、IT先進企業に生まれ変われるものではありません。
ビジネスとテクノロジーの両側面を理解し、距離（関係性）を埋めるのが情報システム部門（あるいはＤＸ推進部門）の大きな役割です。
従前の経験や勘などではなく、データとアルゴリムによって、ビジネスの意識決定や課題解決などを行うにはどうしたらよいかー。
次世代型のビジネスプロセスエンジニアとしての役割を学びます。

◆DX時代の企業と情報システム２
～イノベーションを生み出す超上流作法

デジタイゼーションとデジタライゼーション。言葉は似ていますが、意味は大きく異なります。
DXを推進するにあたり、必要なのはデジタライゼーションです。
それでは、これに必要なスキルは何でしょうか。
問題解決や生産性向上のあらゆる場面において、ロジカルシンキング（論理）はビジネスパーソンには当然必要です。
そこにさらに、新しいことを考え出す感性、イノベーションを生む創造力が不可欠になります。
本講座では、ビジネスイノベーションのしくみと新しい攻守のITにおける超上流のアプローチ「論理×創造」を手を動かしながら学んでいきます。

■参加者の声
考え方と事例を交えて話していただいたため、とても理解しやすかった。
ビジネスプロセスエンジニアに求められる思考法を、非常にわかりやすく教えてもらえる。
実践したワークも身近なテーマを基にしたものが多く、どんなバッググラウンドを持つ人でも理解しやすい内容と感じた。